議　事　要　旨

会 議 名：第13回　エキサイトよこはま２２　懇談会
開催日時：令和５年７月28日（金）17：30～19：00
開催形態：対面及びZoomによるＷＥＢ会議の併用

１.開会

■　事務局より挨拶

■　委員等の紹介

２.横浜市あいさつ

〇平原委員（横浜市　副市長）

日頃から委員の皆様、関係者の皆様には、本当に温かい御理解と御支援をいただき厚く御礼申し上げる。

本日は、第 10 回以来の久しぶりの対面方式と、一部 WEB 参加のハイブリッド方式で開催させていただく。

エキサイトよこはま２２は、横浜駅周辺において、国際都市の玄関口としてふさわしいまちづくりを進めるための計画として、都心機能の強化、都市間競争力の向上に向けて取り組みを推進している。そして、この懇談会は関係者が一堂に会して情報共有し、意見を交換する大変貴重な場となっている。

本日はエキサイトよこはま２２の更なる推進に向け、計画の更新の方向性等を御説明差し上げるので、是非忌憚のない御意見をいただきたい。

３.議題

■　第13回　エキサイトよこはま２２懇談会【資料１】

（１）エキサイトよこはま２２各取組・工事等の進捗状況

○ 西口周辺
○ 東口周辺
○ 治水・親水
○ 防災
○ エリアマネジメント

（２）エキサイトよこはま２２の更新について

○ 横浜駅周辺を取り巻く状況
○ 事業、取組の進捗状況
○ 社会情勢の変化
○ 横浜駅の位置付けと近年の動向
○ 更新の方向性とグランドデザイン

４.意見交換

○原田委員（横浜駅東口振興協議会　会長）

関内駅周辺の開発や、みなとみらい２１地区において、直近ではＫアリーナ横浜がオープンを控えるなど、都心臨海部各地区での開発が進み、完成期を迎えようとしている。横浜駅は今後ますます賑わいを見せていくと思う。

これらの都心臨海部の各エリアの開発に合わせ、都心臨海部各地区と横浜駅周辺地区との連携強化や都心臨海部全体の回遊性の強化などは、極めて重要なものと考えている。

これからは一層開発が進み、みなとみらい２１地区に近接する横浜駅東口地区が横浜駅の特色でもある親水性を生かした玄関口として、来街者が賑わう、集う機能を有することが極めて重要であると考えている。

また、横浜駅東口地区周辺のステーションオアシス地区の開発や、駅前広場の再編についてもみなとみらい２１地区とのこれまで以上の結びつきが重要であることを踏まえ、検討を進めていただきたい。

横浜駅東口地区周辺には、現在、様々な課題がある。短期的には、横浜駅東口のバスターミナル等へ向かうバリアフリー対応や、駅の案内サインの拡充、東口からみなとみらい２１地区への歩行者ネットワークの拡充や、バスターミナルの改修が早急に必要と考えている。

長期的には、出島地区の開発やステーションオアシス地区の開発、東口駅前広場の再編、下水道幹線の整備等による防災対策が必要と考えている。

短期的な課題、長期的な課題への取組が整合性をもちながら、それぞれの課題の解決に取り組んでいただきたい。

エキサイトよこはま２２計画の更新にあたっては、関係者が共通した将来像を持ち、まちづくりを進めることが重要と考えている。

また、横浜駅周辺を取り巻く社会状況が激しく変化しており、その検討にあたっては、スピード感覚を持ちながらも地元関係者の意見を聞いていただき、長期的な視点での計画の更新に取り組んでいただきたい。

当協議会としても、国際都市横浜のポータルサイトとしてふさわしい魅力のあるまちづくりの実現に向け、今後とも西口振興協議会の皆様とも協力しながら各種活動を展開していく。引き続き、行政当局の御指導、御協力をお願いしたい。

○平原委員（横浜市　副市長）

都心部全体の視点からの御指摘、あるいは東口の特徴を踏まえた具体的な提案もいただいた。また、長期的・短期的というような分けをしながらビジョンを共有して長い目でしっかり取り組んでいくといった御意見だったかと思う。

また、個々にバリアフリーの問題など具体的な御指摘をいただいたため、事務局の方でも情報共有しながら、具体的に一緒に検討させていただければと思う。

○左藤委員（横浜駅西口振興協議会　副会長）

エキサイトよこはま２２の計画更新の方向性とグランドデザインを作成していくとの御

説明を伺った。まさにニューノーマルの新たな社会にふさわしい対応であると感じている。西口振興協議会としても、引き続き連携、御協力をさせていただく。

一般社団法人　横浜西口エリアマネジメントでは、各種イベントの開催や公開空地・水辺空間の活用と環境美化、更には防犯防災活動と様々な活動を続けている。

駅前広場の整備も進む中、今後、鶴屋町地区の再開発やイオンモールなど新たな施設の開業も予定されており、西口の未来が益々広がっていくものと確信している。

一方で、選ばれる都市横浜となっていくためには、新たな魅力の創出や価値向上が更に重要となっていく。今後は横浜駅東西だけでなく、みなとみらい２１地区、関内・関外地区等も含めたオール横浜として連携を今以上に強化し、ダイバーシティやインクルージョンといった価値観も踏まえた、サスティナブルな都市としてハード、ソフト両面の課題解決にしっかりと取り組むことが必要不可欠だと考えている。

更に、中央西口駅前広場は横浜の顔となるため、関係者が一層連携を強化して、ハード環境を良好に保つことはもちろん、ソフト面でも横浜の顔にふさわしく先進的でありながら、人と人との温かい交流が生まれるエリアマネジメント活動を行う場として、広場の利活用を充実・推進させたい。

行政各所におかれては、社会実証実験の実施や、エリアマネジメント活動を持続的に行っていくための規制緩和等を御検討いただきたい。

これからも横浜駅周辺の整備には民間事業者としても、行政・地元の方々と一体となりしっかりと取り組みたい。その上で行政の皆様には、人を中心としたウォーカブルな空間を整備するため、交通基盤のあり方を改めて御検討いただくとともに、新たな交通モードを考慮した附置義務駐車場台数の見直しについても、官民が一体となって議論を深めていきたい。

また、今後開発がスムーズに実施できるよう公共貢献に対する容積緩和、用途規制や補助金に関する制度の見直しをお願いするとともに、再開発時の既存テナントの移転場所を確保するため、河川の上空利用の緩和など新たな制度の検討を是非ともお願いしたい。

官民が手を携えて横浜の更なる発展に寄与できるよう、引き続き御指導・御支援のほどよろしくお願いしたい。

○平原委員（横浜市　副市長）

エリアマネジメント活動の御紹介等々あったが、デジタルやサスティナブル等のキーワードを御紹介していただいた。

都心部を含めたオール横浜で、選ばれる都市となるためにどうするか総力をあげてやっていきたい。

また、開発を推進するための様々な誘導策についてもしっかり皆様と協議させていただきたい。

○中山委員（横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発組合　理事長）

2010年５月に、準備組合を立ち上げてから13年が経過し、思い返せば長い道のりだった。

本日のエキサイトよこはま２２懇談会も同じ13回目で、エキサイトとともに再開発が進んできたということになる。これまで長い間、横浜市はじめ多くの方々の御尽力により、来年の春にTHE YOKOHAMA FRONTの竣工を迎えることができる。現在は外装工事をほぼ終了し、内装工事を進めている。

来年度の供用開始に伴い、鶴屋町エリアに新しい住民が増え、低層部には商業・ホテル等がオープンする。それによってより多くの人が鶴屋町を訪れることになる。

今後の更なる鶴屋町エリアの開発に繋がると確信しており、THE YOKOHAMA FRONTが地域の賑わいに貢献して、少しでも横浜駅周辺の発展につながることを期待している。

きた西口鶴屋地区では公共貢献として、タクシー乗り場を整備する予定である。これを活かして、中央西口駅前広場はタクシーが２、３列並んでいるが、タクシー乗り場は１列にして、少しでも駅前の空間を広くし横浜駅の顔のところに、駅を降りた人が横浜に来たと感じられるようにしていただきたい。

○平原委員（横浜市　副市長）

10 数年にわたって取り組んでこられた再開発が、いよいよ来年オープンという苦労話を含めて御意見いただいた。

また、きた西口鶴屋地区でタクシー広場を整備するため、タクシーを分散して、西口の駅前広場をもっと有効に活用してはどうかという御指摘をいただいた。

それも含めてまた相談させていただきたい。

○倉知委員（鶴屋地区街づくり協議会　理事長）

鶴屋町として一貫して申し上げてきたのは、鶴屋橋の工事に合わせて歩道の拡幅をお願いしてきた。現在、鶴屋橋の工事は完成して、左右５ｍずつ歩道幅があり、地元の方々にも喜んでいただけていると思っている。人との接触を出来るだけ避けたいコロナの期間中、この５ｍという幅がとても役に立ったと思っており、横浜市と共に拡幅工事を出来て良かった。

もう一点、とても狭いエリアだが、きた西口駅前広場が手狭なため、例えば川に一部蓋掛けをして広くできないかと一貫して申し上げている。神奈川県の考え方や、河川の上という危険性・浸水性などで、課題があると認識しているが、可能であれば、これからもお話をさせていただきたい。その中で、現在狭い広場だが、改修が進みもうすぐ屋根が完成し、次年度には駅前整備が完成する。私どもとしては、国際都市横浜の玄関口の一端を担うという自負もあるため、これから一年半余りのきた西口駅前広場の整備を共に進めていただきたい。

○平原委員（横浜市　副市長）

以前より同様の御意見をいただいており、感謝申し上げる。それもあり、きた西口駅前広場は川の近くまで最大限空間を活用して整備する予定である。引き続き御相談させていただきたい。

○黒木委員（日本郵便株式会社　執行役員）

横浜駅東口地区では、東日本旅客鉄道株式会社、京浜急行電鉄株式会社、横浜市、そして弊社の４者で構成する横浜駅東口地区開発推進協議会で、ステーションオアシス地区の開発検討を進めている。

ステーションオアシス地区は地盤が軟弱で、鉄道近接の敷地であるため、それらの基盤整備・敷地計画について現在検討しており、事業計画の深度化を進めている。

東口地区はみなとみらい２１地区と横浜駅エリアの中間にあり、その結節点として、また、広域のネットワークの拠点として関心や期待が寄せられている。

引き続き、駅前広場等の基盤整備と連携しながら、計画の具体化に向けて、横浜市の御支援もいただきながら、早期の事業化を目指して取り組んでいく。

また、アフターコロナの開発の先進モデルとなっていくと思っているため、今後のエキサイトよこはま２２の更新内容に沿った開発となるようDXの推進や災害対策・環境・ＳＤＧｓに関する取組みを積極的に取り入れた計画としていきたい。

引き続き、関係者と歩調を合わせて本計画を推進していきたい。

○平原委員（横浜市　副市長）

ステーションオアシス地区の検討状況・進捗状況について御説明をいただいた。

色々課題もあることは承知しており、横浜市としても是非進めたいプロジェクトのため、引き続き連携させていただく。

○平原委員（横浜市　副市長）

相鉄東急直通線が３月に開通し、横浜駅の利用状況の変化について、皆さん気になっているのではないかと思うため、相模鉄道株式会社より御説明頂きたい。

○古瀬委員（相模鉄道株式会社　専務取締役）

今年３月に相鉄新横浜線を開業させていただいた。新横浜線の６月のデータでは、１日あたり約 8.1 万人のお客様に御利用いただいている。この数字は初年度の計画値の９割程度で、まずまずのスタートをきれた。

一方で横浜駅の状況は、６月のデータで１日あたり約32.4万人の方が横浜駅を御利用いただいている。昨年も約33万人の方に御利用していただいているため、大きく減っていない。

今まで横浜駅を御利用されていた方が新たに新横浜線を御利用されている状況もあるが、コロナの状況がだいぶ収束してきてお客様が増えてきているということで相殺されていると思われ、今後、推移を注意深く見ていく必要がある。

相模鉄道としては、「YOKOHAMAどっちも定期」という形で、西谷から新横浜の定期券をお

持ちの方が、横浜駅でも降りられるというサービスを行っている。今後も横浜方面を便利に御利用いただけるよう、色々と工夫していきたい。

○平原委員（横浜市　副市長）

相鉄東急直通線開通後の状況について御説明をいただいた。それほど大きく横浜駅の利用者が減っている状況ではないということをお聞きして、少し安心した。

○中山委員（横浜駅西口地区市街地再開発準備組合　理事長）

横浜駅周辺では緑地が少なく、横浜駅のある西区は市内で最も緑被率が低く 11%しかない。横浜市はみどり税を徴収していながら緑被率が年々減少してしまっている。

これからの都市の問題としては、建物の高層化である。これによりヒートアイランド現象や、高層建物のエレベーター等により一人当たりのエネルギー消費量が高くなっていることも問題である。そういった課題を認識した上で、今後どのようなまちづくりをしていくか考えていただきたい。

また、景観としても横浜市民が海から遠くなってしまっていると感じる。

最後に、他の国では地下鉄や、公共建築物の地下を余分に深く掘ることで、核シェルターを整備しており、平時は他の用途で使用している。シェルター同士を地下でつなぎ連絡できるようにもなっている。核シェルターについて取組は考えているのか。

○平原委員（横浜市　副市長）

緑の問題、高層化による問題、景観の問題等貴重な御指摘をいただいた。

シェルターについては、国が令和３年度から、地下施設を避難施設に重点的に指定しようと取り組んでおり、横浜市としても地下施設を順次避難施設に指定することを検討している。

○小林委員（一般財団法人森記念財団理事長　ガイドライン検討会 会長）

エキサイトよこはま２２の更新の中で重点をおいて考えるべき点は、地球温暖化への対応を考える時に、このエリアには水面があることを活かして、水面の上にある温度の低い空気を風の道を通して動かすということが極めて重要だという点である。東京の丸の内の街づくりでは、東京駅の超高層化を抑えて、風の道が行幸通りに通るようにすることと、日本橋川の上の高架高速道路を地下化してそこに風の道を通すという考えがあり、ほぼ実現する方向で動いている。横浜駅周辺でも風の道や水面をどう認識して、今後の地球環境の改善と駅周辺開発の関係をどのように整理するかという議論が重要ではないか。

横浜市は近年、緑を中心に取り組まれているが、緑とともに水が重要で、帷子川の掘削をすることでおそらく河川の流れが良くなり、その流れに沿って横浜駅周辺の空気が動くことから、掘削は非常に評価されて良いと思う。

反対に、今後横浜駅から海岸に向けて新たな開発を行う際は、風の道を閉ざさないように今から考えていった方が良いと思う。横浜駅周辺の水面、海からくる風の道をどう横浜駅周辺地区の温暖化を抑えることに使えるか考えていく必要がある。

○岸井委員（一般財団法人計量計画研究所代表理事　基盤整備検討会 会長）

本日はエキサイトよこはま２２の更新の方向性が大きなテーマだと思うが、２点申し上げたい。

１つはエキサイトよこはま２２の位置付けを上げるということを、強く政府に対しても主張していく必要がある。

みなとみらい２１地区の開発は40年前に始まったが、35年前に多極分散型国土形成促進法で横浜が業務核都市の指定を受け、様々な公的機関が移転してきて、いよいよみなとみらい２１地区が完成をするという状況になっている。20 年前には都市再生特別措置法が制定され、民間提案で都市再生が進められることとなるが、結果的には高い容積を使える東京では、建物の更新時期とも重なり、東京の大手町、渋谷、新宿、池袋などでは大きなプロジェクトがどんどん進んでいる。その中で横浜がどのようにして競争力を上げていくかを考えた時に、外部的な要素として、エキサイトよこはま２２の位置付けを首都圏レベル、あるいは国家レベルまで上げていくために、今の国土形成計画や首都圏広域地方計画の動きも捉えながら強く主張すべき。

２つ目に民間企業の BCP を促進するための政策を業務核都市政策の第２弾としてやるべき。公的機関はつくばも含めて移転が進み、首都直下大地震に対するリダンダンシーも確保されつつあるが、民間企業はどうか。民間企業を含めたBCPを首都圏レベルで作るということを考えた時に、民間企業の投資に対する様々な政策的な支援を業務核都市政策としてやることが必要ではないか。

そして横浜が、その受け皿となるためにも、横浜自身の競争力を高めることが必要であり、横浜駅周辺だけでなく、臨海部全体をにらんで考えることが必要。そこには住宅、水辺、公園もあり、そういった要素も踏まえながらこれが次の社会の求める生活像だということを描いていく。エキサイトよこはま２２が、次のフェーズに入っていくという感じで次の時代に必要な姿を描いた上で、国土形成計画や広域地方計画においてもそういった政策を支援するようなことをしっかり位置付けてもらうことが必要。新たな広域地方計画や国土形成計画の策定に向けて、現在作業が進められているため、強く謳ってみてはどうか。

○野原委員（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授　アーバンデザイン部会 部会長）

この約10年で様々なプロジェクトが進み、ファーストステージの区切りを迎え、次のステージを考えるにあたってもう一回全体を振り返る時に、エキサイトよこはま２２を含めたこのエリアが、まちのブランドや価値をどれだけ外にアピールできたか、改めてどのように発信できるか考える大事な機会である。

大学で学生に横浜駅周辺の地図を描いてもらうが、残念ながら皆描くことができず、やはりわかりやすさという意味でも少し欠けている部分があるのかなと思っている。そういう意味でも今回グランドデザインを改めて構築する上で、エリア全体、あるいは都心臨海部全体を含めて考えた時の価値をどう作っていけるかはとても大事である。

また、それと同時に、エキサイトよこはま２２のエリアでは、エリア内の各地区がそれぞれ競争力を高めてお互い切磋琢磨することもとても大事である。エキサイトの第１ステージがセンターゾーン中心だったが、その周辺部分も含めて切磋琢磨できるような取組をやっていくことは重要ではないか。

もう一点は、マネジメントについて、もう一段ステージを上げて本格的な地域のマネジメントを進めていける段階に向かうべきである。70 年代以降、横浜は公共空間の整備等の先端をいっていたが、昨今、日本全国が公共空間の活用等を進めているなかで、最近は少し遅れをとっている。全国的にこの 10 年で、公共空間の利活用や、それを基にしたマネジメントが展開されており、是非横浜駅周辺も含めて本格的なマネジメントの展開が出来るとよい。そういう意味ではＤＸの活用などデジタルのプラットフォームとマネジメントを組合せて、どのような形で進めていくのか、例えばニューヨークのタイムズスクエアでは、ある時間になると街全体で官民含めたサイネージが一斉に変化して、アートの取組を行うことによりブランディングをされている例もある。クリエイティブな力も混ぜ合いながら、デジタルとマネジメントを組合せてどのような形でブランディングができるかが非常に重要。今まで蓄積した力をもう一段上に上げていく、そのタイミングとして考えてみてはどうか。

○小林委員（一般財団法人森記念財団理事長　ガイドライン検討会 会長）

エリアマネジメントを横浜市の中でどこが中心的に担っているのかよくわからない。大阪市はエリアマネジメント担当の課長がおり、全てそこを通して他の部局にアクセスしていく。エリアマネジメントを含めたマネジメントが重要だというのであれば、行政としてマネジメントをどこが担うのかということをできるだけはっきりさせていくべき。

５.その他

■　総括

○堀田委員（横浜市　都市整備局長）

委員の皆様からたくさんの貴重な御意見をいただき感謝申し上げる。今後、エキサイトよこはま２２の更新や１つ１つの施策を進めていく中で、しっかりと本日の御意見を踏まえ進めていきたい。

横浜駅周辺については、皆様の御協力のもと、ＪＲ横浜タワーの開業、馬の背の解消、西口駅前広場の整備が進み、さらに横浜駅きた西口鶴屋地区の再開発も今年度いよいよ完成を迎えることとなる。

一方で、進捗が図られていない取組もたくさんある。新たな開発が続いて、横浜駅周辺のまちづくりが力強く進んでいくことが我々としても大事だと感じている。

そのような中で、東口のステーションオアシス地区が、エキサイトよこはま２２をけん引する重要なプロジェクトとして進められるよう連携して進めさせていただきたい。また、ステーションオアシス地区だけでなく、様々な開発や取組が進むよう、まちの将来像をグランドデザインや計画の更新という形でとりまとめていきたい。

海や川を生かした魅力アップや温暖化への対応、バリアフリーへの対応など短期的な取組の必要性、開発を推進するための規制緩和や誘導策、計画のプレゼンスの向上など、いただいたご意見も踏まえ、本市として総合的にエキサイトよこはま２２のまちづくりがしっかりと進むように取り組んで参るので、皆様の引き続きの御支援、御協力をお願いしたい。

６．閉会